

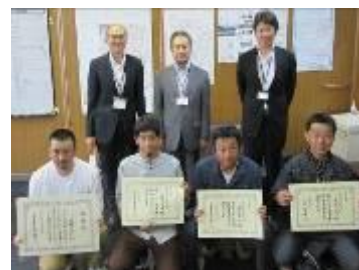
郡上農林事務所の普及活動状況 令和4年6月30日現在

今月の重点活動

■担い手リーダー 感謝状贈呈・認定証交付式を開催

新型コロナウイルスの影響で、一堂を会しての贈呈・交付式が行われないこととなり、6月21日に郡上農林事務所において、令和3年度末で退任した青年農業士1名に感謝状を贈呈し、新規に認定された指導農業士2名、青年農業士1名に認定証を交付した（新規女性農業経営アドバイザー1名は欠席）。

郡上市農務水産課長もご臨席のなか、郡上農林事務所長より感謝状贈呈、認定証交付が行われ、各々から担い手リーダーでの思い出、今後の抱負などが話された。退任者、新規認定者共に今後の郡上地域の農業振興への活躍が期待される。



【式後の集合写真】

郡上の農業・農村を支える人材育成

■就農支援 郡上トマトの学校 現地説明会が開催される

J Aめぐみのが運営する就農研修施設「郡上トマトの学校」の令和4年度第1回説明会が、6月25日に同施設で開催され、農業普及課も関係機関と共に出席した。

1名の参加者に対し、J Aや市からは研修概要や助成制度に関する情報提供がされ、農業普及課からは郡上地域のトマト産地の概要について説明を行った。研修会場では、枝の誘引方法、収穫段数等の栽培管理の質問があり、関係者は丁寧に対応を行い、実作業を行う短期研修への参加を促した。

7月には第2回説明会も予定しており、農業普及課では関係機関と連携し、研修生の確保を目指していく。



【研修会場での説明の様子】

安心して身近な「郡上の食」づくり

■だいこん ひるがの高原だいこん生産出荷組合 出荷目揃え会開催

6月23日にひるがの高原だいこん出荷目揃え会が開催され、組合役員から出荷基準について、写真や見本を示しながら説明が行われた。

農業普及課では技術研修を行い、前年の防除履歴の集計・分析結果を基に、だいこんの品質低下への影響が大きいキスジノミハムシの防除ローテーションの考え方や、農薬作用性による農薬分類(RACコード)について説明を行った。また、一部生産者に協力を依頼しているトリカルネットを用いた土壌流亡対策については、生産者全員に協力を依頼し、今後の現地試験を拡大していくことで了解を得た。

今後、農業普及課では高品質なだいこんの安定生産と環境負荷の少ない農業の実践に向けて支援を継続する。



【出荷されただいこん】

郡上農畜水産物のブランド展開

■ひるがのフラワーサークル 出荷に向けて勉強会・検討会を実施

6月24日(金)に、高鷲地域で切り花生産に取り組む8戸の生産者、市場関係者等が集まり、栽培勉強会・出荷検討会を開催した。勉強会では、現地ハウスで生育状況を確認したほか、他産地情報や栽培管理等の情報交換を行った。

出荷検討会では、市場からはこれまでの暖地・平地の出荷状況について説明があり、「次は高冷地産地の番だ」と激励があった。また、農業普及課からは今後の天候や農薬使用による病虫害防除について資料により説明を行った。

農業普及課では、栽培管理や病虫害防除に関する情報提供を通じて、安定した高品質生産のための支援を行っていく。



【勉強会の様子】

中山間地域を守り育てる対策

■梅 スパイダーモアの実演会の開催

郡上青梅生産組合では現在会員19名、栽培面積約1.4ha、約7tの梅が生産されている。梅は地元の(株)プラムナチュラルが全量買取り、加工品となり市内外で販売されている。

6月2日には、青梅出荷管理講習会が白鳥物産センターで開催され、農業普及課から収穫後の管理について説明し、現地梅園に移動し、栽培管理等について視察研修を行った。

また農業普及課では、梅園管理の軽労化方策として、スパイダーモア(自走式草刈機・中濃農林事務所所有)による草刈を提案し、白鳥ふれあい農園の梅園で実演会を開催した。参加者からは「疲労が少ない」「作業が早い」など好評価であった。

今後も作業の軽労化などを提案しながら、梅の栽培管理を支援していく。



【実演会の様子】